

令和3年第1回定例夕張市議会

令和3年度 市政執行方針

令和3年3月9日

令和3年度 市政執行方針

1 はじめに	1
2 持続可能なまちづくりにおいて	2
(1)まちの将来を描く	2
(2)まちの魅力を磨く（産業振興と交流人口の拡大）	4
(3)子どもたちの可能性を拓ける	6
(4)安心して住み続けるまちをつくる	8
(5)財源をつくる	10
(6)行政執行体制を確保する	11
3 令和3年度予算編成について	12
4 おすびに	15

令和3年第1回定例市議会の開会にあたり、市政執行における所信と予算の編成方針を申し上げ、市議会並びに市民の皆様のご理解を賜りたいと思います。

1 はじめに

令和2年度を振り返りますと、市政全般において『新型コロナウイルス感染症』に多大な影響を受けた1年間でありました。

昨年10月、本市消防本部においても職員7名の集団感染が認められました。感染拡大対策のため濃厚接触者となった消防職員が自宅待機する間、北海道広域消防相互応援協定に基づき他自治体からの応援を受けたことで、市民の安全安心が維持できたところでした。

改めてこの場を借りて関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

本市では、昨年2月末に「新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、細心の注意を払いながら感染症拡大防止対策を進めると同時に、その影響を受けた市内事業者や子育て世代の方々などへの支援に取り組んでまいりました。

しかしながら、現在においても、感染症の拡大は国内で収束することなく、国民の生命や健康、そして社会経済に大きな影響を及ぼしています。

感染症対策の「切り札」として国が承認したワクチンは、発症を抑えたり、重症化を防いだりする効果が期待されており、本市といたしましても迅速且つ適切に接種事業が実施できるよう、現在、国の指示の下、準備に全力をあげているところであります。

2 持続可能なまちづくりに向けて

さて、市長としての任期の折り返しとなる令和3年度を迎えるにあたり、私は、持続可能なまちづくりに向けて大きく六つのテーマを掲げ、それに基づく施策を行っていきたいと考えております。

1) まちの将来像を描く

まず、1点目は『まちの将来像を描く』です。

本市は、まちの将来像である「安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆーばり」の実現に向けて取組などを進めているところではありますが、想定を上回る早さで進む人口減少、公共施設やインフラの老朽化による利用者の利便性や安全性確保の必要性と行政コストの増加が見込まれること、そして市内で土砂災害の危険性が高い区域が多数指定されていることの対応、といった課題があります。

このため、市民や有識者により組織した計画策定委員会からご意見をいただき、令和2年度に「夕張市まちづくりマス

タープラン」を改定、加えて公共施設などの都市機能や居住環境の充実・誘導を図るための指針として「夕張市立地適正化計画」を策定したところであります。

私は、将来にわたり夕張で安心して暮らしていただくために、人口減少下にあっても生活サービスの低下を防ぎ、地域住民の方々との対話や協働により安心して暮らし続けることができるコミュニティの形成・維持が必要であると考えており、そのなかでも、医療や福祉、教育・子育て、商業などの暮らしを支える機能を集積した生活利便性の高い拠点となる地区を形成して、居住の誘導を図っていくことが重要と捉えています。

これらの実現に向け、令和3年度に予定している夕張市公共施設総合管理計画の見直しと併せて、インフラを含む公共施設全般の老朽化対策とともに、都市機能の具体的な施設に関する方策や拠点地区の形成に向けた検討を行ってまいります。

あわせて、居住環境の充実が人口減少の抑制に一定の効果が表れていることから、これまでの住宅施策をより良いものとするため、市内居住者や市外通勤者などに対して居住に関するニーズの把握に努め、ライフステージに合わせた包括的かつ効果的な住宅施策を検討し、居住の誘導を図ってまいります。

2) まちの魅力を磨く（産業振興と交流人口の拡大）

テーマの2点目は『まちの魅力を磨く』です。

まず、『石炭博物館模擬坑道再開に向けた取組み』についてありますが、

一昨年4月に発生した坑道火災以降、この間、坑道排水作業をはじめとした様々な取組みを実施してまいりました。

今後は、有識者・学識者による現地視察とそれに伴う助言等を踏まえ、坑道内炭層の状況を慎重に調査しながら、崩落等の危険防止を最優先に「安全・安心な観覧坑道」の再開に向けて着実に取り組んでまいります。

次に、本市の基幹作物である『夕張メロン』につきましても、本市農業の発展はもとより、観光振興や関連商品の販売促進、ふるさと納税の返礼品など地域経済を多岐にわたり支える、なくてはならない存在であります。

一方で、農家戸数や作付面積など生産体制の縮小が続いている状況であり、安定生産に向けた対策が急務となっているところです。

こうしたことから、夕張メロンの生産体制を強化するため、品質や収量の向上に向けた生産基盤の整備や雇用労働力の確保、大雨等による農地被害の防止に向けた排水改良といった種々の取組を関係団体と連携しながら着実に推進し、世界に誇る夕張メロンの将来を見据えた安定生産体制を構築してまいります。

次に『道の駅“夕張メロード”の魅力向上』についてであります。平成30年の北海道胆振東部地震により損傷したトイレを撤去した以降の再整備や、オープン以来道の駅そのものの魅力向上が長年にわたる課題となっているところです。

近年、休憩機能のみならず情報発信機能や地域連携機能など様々な機能を併せ持つ道の駅の重要性は、道内外においてますます高まっているところであり、本市としても当該施設の機能の維持・強化を図り、道の駅としての魅力を向上させていくことは必要不可欠であると考えます。

よって、トイレの再整備を契機とした道の駅全体の魅力向上を図っていけるよう、関係機関とも連携した検討を進めてまいります。

新たな人の流れを創出するまちづくりを進めていくためには、「交流人口」の拡大の取組に加え、本市にゆかりがある、また、想いを寄せていただいているなどの理由で、本市に多様な関わりをもっていただける方との交流、いわゆる「関係人口」を増やす取組も重要となってまいります。

そうしたことから、市長就任以来、「ふるさと納税」と連携した仕組みづくりや「夕張 Likers 通信」の発行といった情報発信の強化を図るなど取組の実質化を進めてきているところです。

令和3年度においても、一人でも多くの方が本市への関わ

りを持っていただけるよう、「関係人口」拡大に向けた様々な取組について引き続き強化してまいります。

3) 子どもたちの可能性を拓ける

テーマの3点目は『子どもたちの可能性を拓ける』です。

まず『小中高一貫のふるさと教育』ですが、令和3年度はこれまでの「マンツーマンオンライン英会話」に加え、「ふるさとキャリア教育」をスタートさせます。

これは、本市の特性や地域の良さを見直すとともに、これからのまちづくりや市の将来像を考え、情報活用や課題解決の能力を培うことを目的として、地域の人材や教育資源を活かした学習に取り組む計画であり、郷土愛を高めることに期待するものです。

次に『社会教育事業の充実強化』ですが、子どもから大人まですべての市民が学べる生涯学習の実践と潤いのある生活実現のための社会教育事業の推進強化は極めて重要です。

昨年オープンした拠点複合施設「りすた」はこうした活動の拠点として位置付け、感染症対策を徹底するなかで「市民の学びの場」「文化、芸術交流の場」として機能強化が図られるよう取り組むとともに、施設及び周辺の「にぎわい創出」にも寄与するようなイベントの開催などを検討実施してまいります。

「高校魅力化事業」については、基本的な理念を「故郷である夕張に誇りと感謝の気持ちを持ち、どのような状況にあっても幸福に生きていける力を身に着ける」こと、「多くの方から支援をいただいている夕張にとって、人材育成・社会への輩出を通じ社会への恩返しを図る」こととし、この理念を実現するため、「①基礎学力の向上」、「②夕張とのつながり強化」、「③時代に沿った教育の推進」、「④多様な価値観の醸成」といった4つの柱を改めて設定したところです。

特に令和3年度には、「①基礎学力の向上」として公設塾「キセキノ」の質の向上を図っていく予定であります。

市内初の認定こども園となる「ゆうばり丘の上こども園」は、市立ユーパロ幼稚園と清陵保育園を統合再編する形での設置となり、本年4月に開園します。

保育協会の運営による夕張らしい特色のある幼児教育・保育環境を目指すとともに、園で行われる子育て支援事業と拠点複合施設「りすた」で行う子育て相談窓口との連携の強化を図ります。

また、令和3年度においては、地域のすべての子どもを大切に守り育てるため、「子育て世代包括支援センター」及び「子ども家庭総合支援拠点」を設置いたします。

「子育て世代包括支援センター」では、安心して出産・子育てできるように、子育て世代への包括的な支援を行い、「子ども家庭総合支援拠点」では児童相談所と連携して、特に支

援が必要な家庭に対して、相談支援体制を強化し、母子保健施策と子育て支援施策との連携を図り、安心して子育てできる環境づくりに取り組んでまいります。

4) 安心して住み続けるまちをつくる

テーマの4点目は、『安心して住み続けるまちをつくる』です。

まず『市立診療所等移転改築事業』については、昨年策定した基本設計を踏まえ、現在、詳細な図面の作成や意匠の検討などを進めており、令和3年度から建設工事に着手します。

新施設1階には、健康寿命の延伸を目指し、様々なリハビリテーションに対応可能なスペースを確保したほか、2階の介護医療院には、心地良く過ごしていただけるよう、入所者毎に四季折々の景色を眺望できる窓を設け、療養環境の良い居室を整備します。

令和5年夏の供用開始を見据え、夕張市医師会や指定管理者である豊生会の皆様と連携し着実に取り組んでまいります。

次に『高齢者の施策の推進』であります。

本市の高齢者を取り巻く状況の変化や諸課題に対応するため、新たに「第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定いたしました。

介護保険制度の重要性や必要性について理解が深まり、本市の介護サービスを受ける方の割合や給付費等が増える中、高齢者ができる限り住み慣れた地域で暮らしていけるよう、引き続き介護予防、認知症施策、そして住民同士の「互助」に視点を置いた地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組み、併せて保険給付については適正且つ円滑な運営を図ってまいります。

次に『相談・援助を必要とする方への支援』について、障がい福祉施策につきましては『夕張市障がい者計画』等に基づき、個々のニーズに対応したサービス提供体制の一層の整備を図るほか、地域特性を活かした就労機会の確保など、障がいがある方の自立と社会参加を促していくとともに、障がいのある方・ない方が共に家庭や地域で安心して生活を送れる施策の推進に努めてまいります。

生活困窮者支援については、民生委員・児童委員との連携を密にし、相談・援助を必要とする方が孤立しないよう支援を実施し、保護を必要とする方のセーフティネットとして機能する生活保護制度の適切な運用実施に努めるとともに、制度の狭間に陥ることのないような重層的な支援体制を維持いたします。

次に『廃棄物対策』であります。富野じん芥埋立処分地施設は、令和14年10月まで延命を図るべく対策を講じてまいりましたが、人口減少に比してゴミの減量が進まず埋立

可能期間が短縮される可能性があることから、リサイクル、減量化の徹底に向けた一層の啓発と持ち込まれるゴミの監督体制の強化を図り、施設の延命化を図ってまいります。

次に『地域と連携した防災等の取組』ですが、まずは、最も必要である地域との対話をしっかりと重ねながら、各地域それぞれの課題に向き合ったうえで信頼関係を醸成して参ります。その中で、不安の声が寄せられている防災に関しては、地域各々の実情にあわせるかたちで安心安全を高めていく取組を進めてまいります。

5) 財源をつくる

テーマの5点目は『財源をつくる』です。

「ふるさと納税」をはじめとする寄附金は、財政再建中の本市にとって、地域の再生に向けた取組を行うための大変貴重な財源となっているところです。

そうしたことから、市長就任以来、自主財源の確保と市のPRを兼ねて「ふるさと納税」確保のため、情報発信の充実は勿論のこと、地元事業者様や近隣自治体と連携した返礼品の充実、関係人口施策との連動などこれまでにない取組についても積極的に実施してまいりました。

令和元年度には過去最高の寄附額を達成、令和2年度においても、ここまで過去最高の寄附件数を記録しております。

ご寄附いただいた皆様方には、この場をお借りして深く感謝申し上げますとともに、こうした数字は皆さまのご支援の輪が広がっていることの顕れであることから、そのご期待にしっかり応えてまいりたいと決意を強くしているところで

す。
また、「企業版ふるさと納税」につきましても、現在まで多くの企業様からご支援をいただいております、令和3年度の支援を既に表明いただいている企業様もいらっしゃるところで

す。
引き続き、夕張を応援していただける皆様との継続的な関係の構築と、更に多くの支援の輪が広がるよう努めてまいります。

6) 行政執行体制を確保する

最後のテーマは『行政執行体制を確保する』です。

私は市長就任後の所信表明において、「市民生活を支える行政運営の安定的な持続のためには、体制の確保が喫緊の課題であり、職員数の見直しと職員給与の改善について必要な見直しを行うべく検討を急ぐ。」と申したところです。

「職員数の見直し」につきましては、他自治体より派遣を受けている職員のプロパー職員への切替えとも合わせ必要な職員数を算定したうえで、かかる財源を含め今後の採用計画を策定し、国・道と協議してまいりたいと考えております。

また、職員給与の改善については、現在、財政再建のため職員の給料を一律7%削減しているところではありますが、削減率改善に向けた協議を継続して行っていく考えであります。

さらに、安定的な執行体制維持のため必要な「職員の育成」については、これまで外部講師の招聘や市町村職員研修センターへの派遣などを行ってまいりましたが、オンラインの法令研修や他自治体との人事交流など新たな取組みも進め職員のスキルアップに努めてまいります。

3 令和3年度予算編成について

次に、令和3年度の予算編成についてであります。

平成29年3月に総務大臣より同意を得た「財政再生計画の抜本的な見直し」後、5年目にあたる予算編成にあたっては、限られた財源の中で、引き続き経費の全般について適正化を図り、着実に財政再建を推進するとともに、地域再生に向けた効果的な政策展開を図る観点からとりまとめを行ったところであります。

一般会計に計上しました主な事業といたしまして、

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため「ワクチン接種」の体制整備に関する経費

- 令和3年3月の「夕張市まちづくりマスタープラン」改定に基づく次のステップとして、
 - ・都市機能誘導地区における将来像を検討するための「地区構想策定」に関する経費
- 教育・子育て環境の充実を図るため
 - ・公設塾「キセキノ」の機能強化を図るための経費
 - ・令和3年4月開園予定の「認定こども園」を安定的に運営するための経費
 - ・妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う「子育て包括支援センター開設」に関する経費
- 交流人口の拡大を目指し
 - ・石炭博物館の早期再開に向けて「有識者会議」を開催する経費
 - ・観光推進を図るため「地域おこし企業人プログラム」に関する経費
 - ・近隣市町村と協働で行う「広域観光周遊促進事業」に関する経費
 - ・夕張市と継続的な関わりを持つ方の創出策として「関り人口創出事業」に関する経費
- 住環境の維持・向上を目指し
 - ・夕張市立診療所建設の本格的な工事実施に関する経費
 - ・富野じん芥埋立処分地の適正管理とリサイクル収集の充実に係る経費

○防災対策として

- ・地域における防災組織の中核的人材の育成及び避難所備品の管理に関する経費

○持続可能なまちづくりのために、市で行っている公共サービスを外部委託することで機能強化と安定運営を目指すための経費

- ・石炭博物館指定管理委託
- ・体育施設指定管理委託
- ・市営住宅指定管理委託
- ・調理場調理業務委託

○また、歳入確保策として

- ・インターネット上でふるさと納税を取り扱う事業者との契約に係る経費
- ・まち・ひと・しごと創生寄附金（企業版ふるさと納税）の確保

などを計上いたしました。

この結果、一般会計の令和3年度の予算規模は、財政再生計画を

7億4,850万8千円下回る、99億7,013万4千円となったところであります。

次に、特別会計について申し上げます。

各特別会計につきましても、それぞれの制度に基づく事業経費を、収支の均衡が図られるよう財源を考慮しながら措置するとともに、特に施設・設備を有する会計につきましても、従前同様の長寿命化対策と効率的な運用を図るべく、予算編成をいたしたところであります。

なお、公営企業会計である水道事業会計については、食品工場の撤退など水道使用量の大幅減が見込まれることから経営状況は一層厳しくなりますが、持続可能な水道事業を運営していくために業務の効率化を図り、安全で安定した水道水の供給に努めてまいります。

4 おすびに

以上、令和3年度市政執行方針と予算編成について申し上げます。

最後になりますが、

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えず、夕張市を取り巻く経済状況が厳しさを増す中、昨年末から、シチズン時計マニファクチャリング株式会社夕張工場従業員の希望退職募集、マルハニチロ株式会社夕張工場の本年3月末での工場閉鎖、夕張りゾート株式会社の倒産といった出来事が相次いで起こりました。

この度の一連の出来事は、全国唯一の財政再生団体として「財政の再建」と「地域の再生」のための取組を進めている本市にとって、市民の生活はもとより夕張再生の道のりをも揺るがしかねない事態であると受け止めています。

こうした事態を踏まえ、早急に市役所内に対策会議を設置し、雇用や経済など地域への影響を最小限に止めるための対応について実施してきているところであり、引き続き、関係機関と連携しながら進めてまいります。

私が市長に就任以降この2年間、石炭博物館模擬坑道の火災から始まり様々な出来事がありました。

その間、私自ら先頭に立ち、事態の打開に向け全力で取り組んできたところであり、今後も同じ気持ちで邁進してまいります所存です。

市議会及び市民の皆様により一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げ、令和3年度の市政執行方針といたします。